

文樂人形小道具圖解

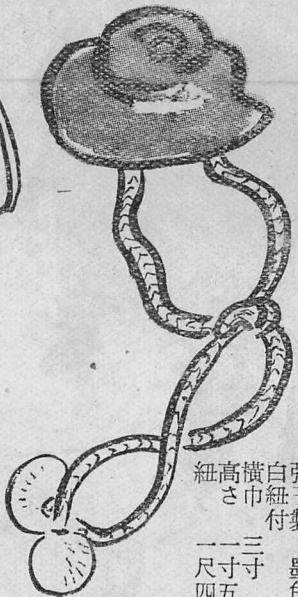
其 三十五

齋藤清二郎解説並繪

(轉載不許)

渡邊源吾綱の冠

戻り橋の段に用ひます



張子製、墨色
白紐付
横巾 三寸
高さ 一寸五分
紐高さ 一尺四寸

俵

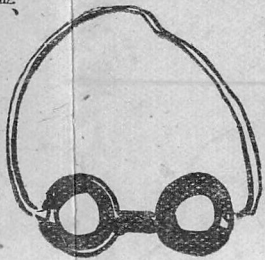
菅原佐田村喧嘩場に、松王、梅王が持上げる俵



巾横 九分二寸
高さ 九分三寸

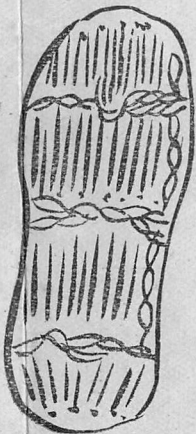
めがね

佐田村白太夫のめがね
紙製
切りぬき
墨色
横巾 二寸三分
輪はハリ金、白太夫の頭からはめ込みます



提灯

油屋の段料理人喜助が持つて來ます
高さ 一尺二寸



◇ 料 劇 觀 御 ◇

- 一等席……………三圓五十錢
(二階座席三十錢上り)
- 二等席……………一圓五十錢
- 三等席……………六 十 錢
(各等入場税別)

體 團 と 賣 前

- 一等御座席 前賣切符發賣致します
は五日前より
- 前賣切符 専用電話 南④四七壹壹番
- 一般御用の電話 南④三〇三二番
南④三七八八番
- ▽團體の御申込は特に御便宜に御相談申上げます

御案内
お草履の準備は座御の草履が
お草履のそのまゝ御入場出來
ます
お草履の準備は座御の草履が
お草履のそのまゝ御入場出來
ます

◇ 出 演 者 ◇

病氣其他の事故にて出場不可能の場合は乍勝手
代役にて相勤めますから豫め御諒承願ひます

昭和十七年九月十日發行 發行兼編輯人 下村清次郎
發行所 大阪四ツ橋文樂座 印刷所 永井日英堂印刷所(西大三四)

九月の人形橋箱編

女の橋脚

文樂座

第一菅原傳授手習鑑

車先の段より
櫻丸切腹の段迄

車先の段
梅丸 竹本 千駒 太夫
櫻丸 竹本 隅若 太夫
杉丸 竹本 松島 太夫
野鶴 竹本 南次 太夫
野鶴 竹本 友季 花

車場の段
松丸 豊竹 和泉 太夫
梅丸 豊竹 伊勢 太夫
櫻丸 豊竹 富太 太夫
杉丸 豊竹 文字 太夫
杉丸 豊竹 田喜 太夫
杉丸 豊竹 呂喜 太夫
杉丸 豊竹 長尾 太夫
杉丸 豊竹 新左衛門 八

喧嘩の段
豊鶴 豊鶴 新左衛門 八

訴訟の段
鶴澤 鶴澤 網造

櫻丸切腹の段
鶴澤 鶴澤 網造

〔人形役割〕
舍人 梅丸 吉田 玉徳
舍人 櫻丸 桐竹 紋十郎
杉丸 桐竹 紋之助
舍人 松丸 吉田 玉造
時平 公 桐竹 龜松
仕丁 大 ぜい
女房 千代 吉田 小兵吉
女房 はる 桐竹 紋司
親白 太夫 吉田 玉市
女房 八重 吉田 光之助

第三伊勢音頭戀寝刃

〔人形役割〕

古市油屋の段
中竹 本重 太夫
豊澤 廣助

切豊竹古鞍太夫
鶴澤 清六

〔人形役割〕
女郎 お紺 桐竹 龜松
眞の伯母 吉田 小兵吉
福岡 貢 吉田 榮三
料理人 喜助 吉田 玉造
仲居 萬野 吉田 文五郎
女郎 お鹿 吉田 榮三郎
徳島 岩次 桐竹 政龜
藍玉屋 北六 吉田 玉徳
小女 郎 桐竹 紋司
泊り 客 吉田 多三郎
起番 吉田 兵次
仲居 吉田 兵二郎
下女 吉田 常次
女郎 桐竹 紋太郎

第二増補大江山

辰橋の段
渡邊 源吾 綱
郎黨 右源太 桐竹 紋太郎
郎黨 左源太 吉田 多三郎
扇折 若菜 桐竹 紋十郎
實ハ悪鬼

〔人形役割〕
渡邊 源吾 綱 吉田 玉助
郎黨 右源太 桐竹 紋太郎
郎黨 左源太 吉田 多三郎
扇折 若菜 桐竹 紋十郎
實ハ悪鬼

第四土屋主稅

西亭脚色並作曲 大塚克三舞臺裝置

向島其角住家の段
中竹 本重 太夫

〔人形役割〕
奴 角平 桐竹 紋太郎
下女 おすみ 吉田 榮三郎
大高源 香 吉田 光之助
宗匠 其角 桐竹 政龜
落合 其月 吉田 玉助
土屋主 稅 吉田 榮三
侍女 お園 吉田 文五郎
若侍 吉田 兵次

文樂人形圖解 其三十五

新造



女郎おこん(伊勢音頭戀寝刃)
白塗
髪油付、潰し島田
かしらの動き、ねむり眼

齋藤清二郎解説並繪(不許)

世話淨瑠璃に現れた哀艶な女郎、藝者の類を指して「新造」と云ひます。
しかし、特別に「新造」と呼ぶかしらは無いのであります。現在文樂座では「老けたねむりの娘」か「老けおやま」の類を使ひます。
その特長は、稍頰の張つたものに、眉毛を幾分大きく描きますと「新造」になります。
主な役柄は、新口村の梅川、堀川のお俊、酒屋の三勝、紙治の小春、忠臣蔵茶屋場のお軽、明烏の浦里、双蝶々橋本の吾妻、等。